

# 『北海道「北極海航路」調査研究会』の開催

北海道総合政策部交通政策局物流港湾室 主査 山下 香

平成 26 年 2 月 4 日（火）、北極海航路の活用に関するロシア現地調査の結果などを紹介する『平成 25 年度 第 2 回 北海道「北極海航路」調査研究会』の講演会が、プレスト 1・7 ビルにおいて、約 50 人の参加者のもと開催しました。



会場の様子

道では、北東アジアにおける物流・人流の拠点を目指す「北東アジア・ターミナル構想」を策定し、この実現に向けて、様々な取組を進めています。

この構想においては、北極海航路の活用を、本道の地理的優位性を活かす重要な取組と位置付けており、その一環として、平成 24 年度に行政機関、研究機関、港湾関係者の方々にご参加いただき『北海道「北極海航路」調査研究会』を立ち上げ、北海道における北極海航路などについて勉強を進めてきました。

こうした中、昨年 11 月、国土交通省と北海道などが合同で、ロシア連邦のモスクワやムルマンスク州において、北極海航路の活用に関する最新の情報収集や今後の動向把握を目的とした現地調査を実施しており、道内の港湾・海運などの関係者とこうした最新情報を共有するために、今年度の第 2 回研究会として本研究会を開催しました。

本研究会では、始めに、道の葛西悟 物流港湾室長から主催者挨拶を行い、その中で、ムルマンスク州政府との交流について報告しました。現地調査における州政府とのミーティングの際、第一副知事から、「ムルマンスク州は北極海航路に関する日本と北海道の行動をサポートする用意があり、お互いの意見交換を促進することが重要である」との提案があり、これに対し、道荒川副知事からムルマンスク州アレクセイ・チュカビン第一副知事あてに、交流を継続し、お互いの協力態勢を構築して行くことを目指した親書を送ったこ

とを説明しました。

続く講演では、今回のロシア現地調査で中心的な役割を務められた国土交通省総合政策局海洋政策課の藤原弘道主査から「北極海航路に関する動向について」と題して発表がありました。北極海航路の通過航行はここ 3～4 年で急増し、2013 年には 71 隻の航行実績があったことを紹介し、増加要因の一つとして、ロシア北部での資源開発が進み、北極海航路のポテンシャルに各国が注目している点を挙げました。また、2014 年度の国土交通省の取組として、北極海航路に係る官民連携の協議会を設置し、北極海航路の活用可能性について検討を行う予定であることを説明しました。



国土交通省 藤原主査



北日本港湾コンサルタント(株) 大塚部長

続いて、国土交通省の北極海航路検討業務の受託者として今回のロシア現地調査を取り纏めた北日本港湾コンサルタント株式会社企画部長で日本海洋政策学会の大塚夏彦理事より「2013 年の北極海航路輸送」と題して発表がありました。海外の動向に関して、ロシアの法律に基づく航行手続きが大幅に簡素化されるとともに、ロシアやノルウェーなどの LNG・鉄鉱石・石炭関係企業が、「北極海航路を通じてアジア市場への輸出拡大を望んでいる」などと紹介しました。また、中国や韓国が北極海航路の利用拡大に積極的である点を指摘し、本道が北極海航路におけるアジアの拠点を目指すためには、本道が持つ地理的優位性や港湾などのインフラを生かした戦略の工夫と先行展開が必要との考えを説明しました。

また、質疑応答では、参加者より官民連携協議会の体制充実に関する意見が提起されるなど、活発な議論が行われました。

本研究会は、北極海航路の最新情報を共有できる良い機会になったと思います。道としては、参加頂いた皆様をはじめ関係機関と連携を図りながら、引き続き北極海航路の活用に向けて取り組んでいきたいと考えております。